

(別紙2)

審査の結果の要旨

氏名 高 史明

本論文は、在日コリアンに対するレイシズム（人種偏見と民族偏見の総称）に関して、心理学的な観点から、ソーシャル・メディアから収集された大量のデータと大学生に対して行った質問紙調査に基づき、その構造を解析し、改善への道筋を探ることを目的としたものであり、全6章から構成されている。

第1章では、在日コリアンを巡る現状を概括し、海外におけるレイシズム研究を概観している。古典的レイシズムと現代的（象徴的）レイシズムという2つの概念の有効性について議論している。

第2章では、ソーシャル・メディア（Twitter）上でのツイート（投稿）を大量に収集して計量テキスト分析を行い、コリアンについての言説と中国人や日本人についての言説とを比較した結果、コリアンに対して古典的レイシズムも現代的レイシズムも存在することを明らかにした。

第3章では、質問紙調査を行った結果、確認的因子分析により古典的レイシズムと現代的レイシズムが区別できる概念であること、それらに予測的妥当性と弁別的妥当性のあることを明らかにした。また、古典的レイシズムの方が感情的要素が強いこと、女性の方がレイシズムが弱いこと、2つのレイシズムは単なる事実の反映ではないことを示した。

第4章では、質問紙調査に基づき、メディアとの接触と保守的イデオロギーとの関係について検討した。インターネットの使用は社会支配指向の高さと結びつくこと、長時間の使用は両レイシズムを強める傾向があること、使用目的が情報収集である場合は社会支配指向を強めると共に古典的レイシズムも強める傾向があること、メールを読む時間が長くなると感情を悪化させ、メールを書く時間が長くなると感情を好転させることを明らかにした。

第5章では、在日コリアンの友人を持つという直接接触と、友人の友人が在日コリアンであるという拡張接触について分析した結果、レイシズムを好転させるのは、男性では直接接触、女性では拡張接触であることを示した。

第6章では、研究結果をまとめ、在日コリアンに対しては古典的および現代的レイシズムの両者が認められることを示し、黒人に対するレイシズムとの比較を行った。レイシズムを緩和させる方策を提言すると共に、今後の研究の展開について議論している。

本論文は、在日コリアンに対するレイシズムに関して、大量収集データを分析し、さらに質問紙調査により検討したものであり、レイシズムの構造を明らかにしたという点で評価に値する。とりわけ、実証的研究における大量データの利用有効性を示したことが高く評価できる。相関関係と因果関係の区別がやや曖昧な点や標本に偏りがある点などが今後の課題として残されているものの、この分野の研究に大いに寄与したものと認めることができる。以上の点から、本審査委員会は、本論文が博士（心理学）の学位を授与するのに相応しいものであるとの結論に達した。